

総合基礎科目	人間と社会「芸術とコミュニケーション」					
看護学科	選択必修	1単位	演習	平成30年度	前期	1・2・3・4年次
臨床検査学科	選択必修					
科目名	生命と芸術実践演習Ⅰ（複合身体表現A） Lives and Art Practice Exercises (The Body as Origin of Arts and Communication)					
担当教員	◎隅地茉歩 阿比留修一					
目的	年齢や性別によらず、身体は本来とても繊細で敏感です。その繊細さに目覚めると、他者の身体にも敏感になります。相手が今どのような状態にあるのか、身体から発信されている情報を注意深く受け取ることは、コミュニケーションの扉を開くことに他なりません。それは医療においても大変重要であるはずですが、この授業では、様々な角度から自分の身体感覚を磨き、他者との、言語に依拠しないコミュニケーションの多様な在り方に開眼し、身体表現作品創作の実体験を通して、それらをアウトプットできるようになることを目的とします。					
目標	授業の各回で視点を変えた様々なボディワークを体験することにより、身体を通じた自己発見、及び他者の発見、さらに相手との繊細なコミュニケーションの在り方を学びます。そして、それらに基づく身体表現による作品創作を通して、身体の動きで表現することの豊かさや喜びが他者と共有できることを理解します。医療の現場でのコミュニケーションにも応用しうる「身体を読む力」の獲得がこの授業の目標です。					
他科目との関連	「芸術とコミュニケーション（生命と芸術実践演習）」科目群 人間関係とコミュニケーション、相互扶助論Ⅰ・Ⅱ					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	レポート	最終レポート（授業期間での学びを総括するレポート）				0.5
	記録等	毎授業末に提出するコメントシート				0.2
	その他	創作作品への取り組み（創作のプロセスを含めた作品への貢献度）				0.3
評価基準	総合評価で一定基準以上を合とし、未満は否とする。					
教科書	なし					
参考資料	『日本人の身体能力を高める「和の所作」』、安田登著、マキノ出版、1,300円					
備考 (受講上注意、事前学習等)	<ul style="list-style-type: none"> 全出席を基本とし、かつリフレクシオンへの参加を前提とする。 実技授業なので、運動のできる服装に着替えてくること。特に裸足になれるように。 授業の都度、コメントシートに記入するので筆記用具を持参すること。 毎回の実践内容を、復習として身体で実際に試し、次回までに習熟度を上げておくこと。 					